

[学会・シンポジウム]

1. 古田 巧、菅 敏幸、鈴木康夫、鈴木 隆:カテキン類の生理活性発現機構解明を目的とした合成的手法によるプローブ分子の開発

2005 US フォーラム(静岡)、要旨集、p.41、2006 年 3 月 2 日

2. 赤岩路則、力丸健太郎、森 一樹、横島 聡、菅 敏幸、福山 透:(-)-Lemonomycin の合成研究

第 86 回日本化学会春季年会(神奈川)、講演要旨集(2)、p.1341、2006 年 3 月

3. 櫻田明日香、竹元万寿美、田中圭、菅敏幸:植物培養細胞-過酸化水素システムによるテアフラビン類の合成

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.21、2006 年 3 月 28 日

4. 廣岡康男、上田 満、古田 巧、田中 圭、菅 敏幸:生理活性ポリフェノール誘導体の合成研究

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.22、2006 年 3 月 28 日

5. 望月雅允、古田 巧、田中 圭、菅 敏幸:膜蛋白質の選択的切断を目的とする人工リン脂質の合成研究

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.23、2006 年 3 月 28 日

6. 鈴木紳也、小泉靖明、堀川 学、古田 巧、田中 圭、菅 敏幸:Bay 領域にヘテロ原子を有するビフェナスリルエーテル誘導体の合成研究

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.23、2006 年 3 月 28 日

7. 鈴木宏隆、古田 巧、脇本敏幸、糠谷東雄、辻 邦郎、田中 圭、菅 敏幸:抗炎症作用を持つフラボン C-配糖体の合成研究(その 4)

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.26、2006 年 3 月 29 日

8. 小林 秀樹、菅 敏幸、福山 透:(+)-デカルシビンの合成研究

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.27、2006 年 3 月 29 日

9. 北 陽一、菅 敏幸、福山 透:Manzamine A の合成研究

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.28、2006 年 3 月 29 日

10. 脇本敏幸、新田 誠、Ye Yiping、糠谷東雄、菅 敏幸、辻 邦郎、横尾芳明、根本明日香、小池美奈子、諏訪芳秀、山路奈保子、岩下 孝、榎屋浩大:光学活性な Hordatine A の合成とムスカリン M3 受容体結合活性

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.37、2006 年 3 月 29 日

11. 石川智子、竹元万寿美、岩切靖卓、菅敏幸:植物培養細胞による各種テトラヒドロカルバゾール誘導体の酸化的開裂反応を利用した 4-キノロン誘導体の合成

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.73、2006 年 3 月 30 日

12. 北村祐樹、橋本理乃、古田 巧、田中 圭、菅 敏幸:新規ホスフィン配位子による phenanthridinone 誘導体の合成研究

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.69、2006 年 3 月 30 日

13. 川本諭一郎、井上 暢、菅 敏幸、福山 透:アルテミシジンの合成研究

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.149、2006 年 3 月 30 日

14. 内田賢司、小泉一二三、横島 聡、菅 敏幸、福山 透:(-)-モルヒネの合成研究

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.152、2006 年 3 月 30 日

15. 浅川倫宏、飯沼美絵、古田 巧、田中 圭:クムレンの反応性:Heck 反応に対する反応性の検討

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.159、2006 年 3 月 30 日

16. 小泉一二三、高瀬真衣、下川 淳、竹部 享、星野 健太、北 陽一、富成祐介、高橋宴子、杉本康昭、不破春彦、富田泰輔、横島 聡、菅 敏幸 夏莉英昭、岩坪 威、福山 透:天然物中間体からの γ -セクレターゼ阻害剤の探索

日本薬学会年会 126 年会(仙台)、講演要旨集(4)、p.184、2006 年 3 月 30 日

17. 石山絹子、西村肅見、渡邊章子、宮瀬敏男、斉藤慎一、竹元万壽美、佐野満昭:メチル化カテキン 2 量体の合成とその抗酸化活性について

第 60 回日本栄養食糧学会大会(静岡)要旨集、p.197、2006 年 5 月 19 日

18. 井上 暢、川本諭一郎、米原光弘、菅 敏幸、福山 透:ジアステレオ選択的 C-H 挿入反応を用いた光学活性ビシクロ[3.3.0]骨格の構築

第 51 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム(埼玉)、要旨集、p.52、2006 年 5 月

19. 古田 巧、小泉靖明、鈴木 紳也、藤井 敏、田中 圭、菅 敏幸:新規ビフェナンスリルエーテル誘導体の合成とその立体構造

第 4 回次世代を担う有機化学シンポジウム(大阪)、要旨集、p.52、2006 年 5 月 20 日

20. 鈴木宏隆、古田 巧、脇本敏幸、糠谷東雄、辻 邦郎、田中 圭、菅 敏幸:抗炎症作用を有するフラボン C-配糖体 Chafuroside の合成研究

第 5 回新規素材探索研究会(静岡)、2006 年 6 月 2 日

21. 鈴木 紳也、小泉靖明、古田 巧、田中 圭、東屋 功、菅 敏幸:新規ビフェナンスリルエーテル誘導体の合成とその立体構造

第 5 回新規素材探索研究会(静岡)、2006 年 6 月 2 日

22. 廣岡康男、阿部紋子、菅田裕介、上田 満、古田 巧、菅 敏幸:生理活性ポリフェノール誘導体の合成研究

第 5 回新規素材探索研究会(静岡)、2006 年 6 月 2 日

23. 望月雅允、古田 巧、田中 圭、菅 敏幸:膜蛋白質の選択的切断を目的とする人工リン脂質の合成研究

第 5 回新規素材探索研究会(静岡)、2006 年 6 月 2 日

24. 多治見寛子、鈴木宏隆、古田 巧、脇本敏幸、糠谷東雄、辻 邦郎、菅 敏幸:烏龍茶微量活性成分 Chafuroside の新規合成法の開発

第 52 回日本薬学会東海支部総会・大会(静岡)、講演要旨集、p.9、2006 年 7 月 1 日

25. 伊藤舞衣、望月雅允、古田 巧、菅 敏幸:Head グループに蛋白切断部位を持つリン脂質誘導体の合成

第 52 回日本薬学会東海支部総会・大会(静岡)、講演要旨集、p.10、2006 年 7 月 1 日

26. Toshiyuki Kan, Tomohiro Asakawa, Yuuki Takehana, Tohru Inoue, Yuichiro Kawamoto, Mituhiro Yonehara, Takumi Furuta, Tohru Fukuyama: An efficient synthesis of bicyclo[3.3.0]octane ring system via Rh-carbenoid mediated C-H insertion reaction.

ICOB-5 & ISCNP-25 IUPAC, International Conference on Biodiversity and Natural Product(京都)、講演要旨集、p.35、2006 年 7 月 26 日

27. Yasuo Hirooka, Ayako Abe, Yusuke Sugata, Takumi Furuta, Toshiyuki Kan: Synthetic study of (-)-epigallocatechin gallate.

ICOB-5 & ISCNP-25 IUPAC, International Conference on Biodiversity and Natural Product (京都)、
講演要旨集、p.277、2006 年 7 月 26 日

28. Takumi Furuta, Masayoshi Mochizuki, Mai Ito, Toshiyuki Kan: An efficient synthesis of artificial phospholipids for cleavage of integral membrane protein.

ICOB-5 & ISCNP-25 IUPAC, International Conference on Biodiversity and Natural Product (京都)、
講演要旨集、p.309、2006 年 7 月 26 日

29. Haruhiko Fuwa, Kenichi Hiromoto, Yasuko Takahashi, Satoshi Yokoshima, Toshiyuki Kan, Tohru Fukuyama, Takeshi Iwatsubo, Taisuke Tomita, Hideaki Natsugari: Divergent synthesis of molecular probes on caprolactam γ -secretase inhibitors and their molecular targets.

ICOB-5 & ISCNP-25 IUPAC, International Conference on Biodiversity and Natural Product (京都)、
講演要旨集、p.545、2006 年 7 月 26 日

30. 古田 巧、望月雅允、伊藤舞衣、坂井美夏、林 裕泰、浅川倫宏、鈴木 隆、鈴木康夫、田中 圭、菅 敏幸、Nathan Fishkin、中西香爾: 膜蛋白質の選択的切断を目的とする人工リン脂質の合成と機能

第 48 回天然有機化合物討論会(仙台)、講演要旨集、p.439、2006 年 10 月 11 日

31. 古田 巧、廣岡康男、阿部紋子、菅田裕介、上田 満、古田 巧、菅 敏幸: Synthetic study of EGCG and related catechins.

第 11 回静岡健康・学術フォーラム、2006 年 10 月 20 日

32. Toshiyuki Kan: Synthetic study on bioactive natural product.

The Seventh Japan-China International Symposium on Health Sciences (Shizuoka)、講演要旨集、

p.22、2006年11月6日

33. 石川智子、竹元万寿美、菅敏幸: 酵素法による各種テトラヒドロカルバゾール誘導体の酸化的開裂反応を利用した4-キノロン誘導体の合成

第39回酸化反応討論会(つくば)、講演要旨集、p.98、2006年11月7日

34. Takumi Furuta, Masayoshi Mochizuki, Mai Ito, Minatsu Sakai, Hiroyasu Hayashi, Tomohiro Asakawa, Fumi Kataoka, Satoshi Fujii, Takashi Suzuki, Yasuo Suzuki, Kiyoshi Tanaka, Toshiyuki Kan: Design and synthesis of artificial phospholipids for selective cleavage of integral membrane protein.

第28回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム(静岡)、薬学雑誌 126, suppl. 4, p.160、2006年11月10日

35. Toshiyuki Kan, Yusuke Tominari, Yuichi Morohashi, Taisuke Tomita, Hideaki Natsugari, Takeshi Iwatsubo, and Tohru Fukuyama: Functional Analysis of μ -Secretase, which concerns with generation of amyloid β -peptides ($A\beta$)

第28回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム(静岡)、薬学雑誌 126, suppl. 4, p.158、2006年11月10日

36. Toshiyuki Kan, Yuichiro Kawamoto, Tomohiro Asakawa, Yuki Takehana, Tohru Inoue, Mitsuhiro Yonehara, Takumi Furuta, Tohru Fukuyama: An efficient synthesis of bicyclo[3.3.0]octane ring system via Rh-carbenoid mediated C-H insertion reaction and its application to synthetic study on Altermicidin

IKCOC10(京都)、講演要旨集、p.93、2006年11月14日

37. 竹花裕貴、浅川倫宏、若杉祐子、古田 巧、井上 暢、福山 透、菅 敏幸: C-H insertion を鍵段階とする bicyclo[3.3.0]octane 骨格の構築

第37回中化連秋季大会(愛知)、講演要旨集、p.187、2006年11月13日

38. 鈴木 紳也、小泉靖明、堀川 学、古田 巧、田中 圭、東屋 功、菅 敏幸: 特異な立体構造を持つ新規ビフェナンスリルエーテル誘導体の合成とその光学的挙動

第 37 回中化連秋季大会(愛知)、講演要旨集、p.202、2006 年 11 月 13 日

39. 望月雅允、古田 巧、田中 圭、菅 敏幸:機能性リン脂質誘導体の効率的合成法の開発

第 37 回中化連秋季大会(愛知)、講演要旨集、p.208、2006 年 11 月 13 日

40. 北 陽一、菅 敏幸、福山 透:Manzamine A の合成研究

第 32 回反応と合成の進歩シンポジウム(広島)、講演要旨集、p.126、2006 年 12 月 4 日

41. 古田 巧、北村祐樹、橋本理乃、田中 圭、菅 敏幸:新規ビアリール型ホスフィン配位子による含窒素複素環化合物の合成研究

第 32 回反応と合成の進歩シンポジウム(広島)、講演要旨集、p.148、2006 年 12 月 5 日

[研究報告書]

1. 菅 敏幸(代表):アミロイド β ペプチドの産出を担う γ セクレターゼの機能解明

平成 17 年度 日本学術振興会科学研究費補助金実績報告書(基盤研究(C))

2. 古田 巧(代表):膜蛋白質の選択的切断法の開発と応用

平成 17 年度日本学術振興会科学研究費補助金実績報告書(若手研究(B))

3. 野口博司、鈴木康夫、菅 敏幸、古田 巧、佐藤雅之、池田 潔、鈴木 隆:変異を克服した画期的抗ウイルス薬の開発

平成 17 年度 創薬等ヒューマンサイエンス研究重点研究報告書 pp. 25-30

[研究・教育・社会活動]

1. 菅 敏幸:「イソキノリンアルカロイドの化学:エクチナサイジン 743 の全合成を出発点として」

文部科学省科学研究費特定領域研究「生体機能分子の創製」第三回公開シンポジウム、東京大学、
弥生講堂、2006 年 12 月 9 日

2. 菅 敏幸:「顕著な生理活性を有するヘテロ環含有天然物の合成」

名古屋大学大学院理学研究科講演会、名古屋大学野依記念物質科学研究館、2006 年 12 月 11 日

[外部助成]

1. 菅 敏幸(代表):アミロイド β ペプチドの産出を担う γ セクレターゼの機能解明

平成 18 年度 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

2. 菅 敏幸(代表):光親和性プローブの簡便な合成法の開発

平成 18 年度 SUNBOR GRANT(研究助成金)

3. 菅 敏幸(平成 18 年度事業推進担当者):食品生理活性化合物の有機合成を基盤とする生物有機化学的展開

21世紀COEプログラム先導的健康長寿学術研究推進拠点

4. 菅 敏幸(分担):強力な抗ガン機能を有する生体機能分子の独創的合成ルートの開発

平成 18 年度科学研究費補助金(特定領域研究)

5. 菅 敏幸(分担):生体機能分子の創製に関する研究の総合的推進

平成 18 年度科学研究費補助金(特定領域研究)

6. 菅 敏幸(分担):ヘテロ元素含有高次構造天然物の独創的合成法の開発

平成 18 年度科学研究費補助金(基盤研究(S))

7. 菅 敏幸(分担): β アミロイドを標的とするアルツハイマー病新規治療法の開発

平成 18 年度 厚生労働省 保健医療分野における基礎研究推進事業

8. 菅 敏幸(分担)、古田 巧(分担):変異を克服した画期的抗ウイルス薬の開発

平成 18 年度創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業

9. 竹元万寿美(代表):茶培養細胞を利用した紅茶テアフラビンの合成

平成 18 年度独立行政法人科学技術振興機構 JST サテライト静岡(実用化可能性試験)

10. 古田 巧(代表):膜蛋白質の選択的切断法の開発と応用

平成 18 年度日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究(B))

[\[TOP\]](#)